

## 第 8 回日本小児へそ研究会のご挨拶

この度、第 8 回日本小児へそ研究会をお世話させていただくこととなり、大変光栄に存じます。またこのような貴重な機会を与えていただきましたご関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

本研究会は会の発足以来、日本外科学会定期学術集会の期間中での開催が恒例となっております。今回も第 122 回日本外科学会定期学術集会会頭であられる熊本大学病院 病院長、熊本大学大学院生命科学研究部 消化器外科学教授 馬場秀夫先生のご厚意により、同学術集会開催期間中に開催させていただき運びとなりました。

主題は「皆様に治療をお聞きしたい症例—巨大でべそから腹壁破裂・臍帯ヘルニアまで」といたしました。小児外科領域において「へそ」に関連する疾患は多岐にわたり、症例ごとに臨床経過に大きな違いがあるのもその特徴です。また、近年の小児外科医療の質の向上、手術器具の進歩に伴い、「へそ」を利用した創が小さく目立たない術式が、施設ごとに様々な工夫がなされ発展していることと存じます。そこで、実臨床に直結するような有意義な研究会が開催できればと考えております。治療に難渋された症例、現時点で治療が完結しておらず治療に難渋されている症例などもご提示いただき、皆様とディスカッションを繰り広げられれば幸甚に存じます。

私のモットーでもあります、「外科医の原点は症例報告にあり」を体現可能にする様な、若手にとって魅力ある研究会を開催できるよう尽力させていただき所存です。

今なお先がみえないコロナ禍にあり、全国の医療機関がひっ迫している中、皆様方におかれましては、ご苦勞も多々おありであろうと拝察いたします。このような状況下ではありますが、多数のご参加を心よりお待ちしております。

令和 3 年 10 月

第 8 回日本小児へそ研究会  
会 長 山高 篤行  
(順天堂大学医学部 小児外科学講座 教授)